

教員名	大塚 常樹 (OTSUKA Tsuneki)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	
職 名	教授
URL/E-mail	

◆研究キーワード

日本近代詩 / 宮沢賢治 / 文学理論 / メディア戦略 / 昭和文学

◆主要業績

総数 (3) 件

・「草野心平―大胆な表現・とらわれのないスタイル」
共著

『日本のアバンギャルド』（和田博文編）
117頁－195頁

2005年5月・世界思想社

・高田敏子・井坂洋子・多田智満子
各項目執筆

『日本女性文学事典』

2006年1月・日本図書センター

・「田村圭司『吉田一穂 究極の詩の構図』」書評

「日本文学」第54号・日本文学協会
2005年

◆研究内容

①日本近現代詩の研究。

特に金子光晴、草野心平、萩原朔太郎、さらに1990年代以降に活躍する詩人について研究している。

②宮沢賢治の研究

近代科学、仏教、芸術などに幅広い視点からこれまで多数の研究を発表してきた。

③昭和初期文学の研究。

梶井基次郎、太宰治、川端康成、谷崎潤一郎、三島由紀夫などについて、主に表現戦略の観点から研究している。

④文学理論のテキストへの応用理論の研究。

文学テキストを一種のメディア戦略ととらえ、題名、人名、設定、語り、情報操作、目的、想定読者、誘惑、文化状況などの観点から、具体的な戦略理論の構築を行っている。

◆教育内容

①日本近代文学論特殊研究（文学理論）

文学テキストを作者と読者の仮想コミュニケーションととらえ、語り手、人物設定、修辞法、再現性、イデオロギーなど、その情報操作と戦略を提示した。

②日本近代文学論演習（現代）

大正期から昭和に活躍した川端康成や谷崎潤一郎、太宰治などの作家と作品について、分析用のチャートを配布し、それに基づいて学生各自に分析発表させた。

③日本近代文学史論（現代）

大正期から30年代までの文学史を、代表的な作家とその作品、文壇関係を細かく分析しながら追っていく。学生に調査レポートさせる参加型授業。

④日本文学

1年生向けの基礎講義。宮沢賢治のゼロ弾きのゴーシュや川端康成の伊豆の踊子などを、文学理論に基づいて、チャート式に分析を行った。

⑤現代日本文学特論

大学院前期課程の授業。文学理論に基づく文学研究の具体的な方法論を学ばせた。

⑥日本文学研究指導

卒論を書くための基礎的なスキルを学ばせた。

◆将来の研究計画・研究の展望

- ①今後は文学理論の具体的な応用理論について、細部の詰めを行っていきたいと考えています。
- ②日本現代詩について、その表現方法に関する研究をしていきたいと考えています。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・文学理論の文学テキストへの応用。またはナラトロジー研究。
- ・メディア戦略論。

◆受験生等へのメッセージ

私の専門分野は日本近現代詩とメディア戦略を中心にした文学理論です。宮沢賢治の研究が一番多く、角川文庫の注釈などで皆さんの目に触れることがあります。萩原朔太郎や草野心平、金子光晴、梶井基次郎、太宰治の研究もしています。高校の国語教科書の編集も手がけています。

最近関心を持っているのは、文学もまた一種のメディア戦略であるということです。作者がいて、作品があり、そしてそれを読む読者がいて、また発表媒体があり、それらを取り巻く批評、文化状況があります。題名ひとつとっても意味がありますし、人名や設定にも意味があります。どのようなテーマがどのような話や設定で、どんな文体や形式で、どのような媒体で、どのような読者を想定されて構築されているか、ここには計算と意図が働いています。文学テキストも商品広告や政治パフォーマンスなどと違いはないのです。私は授業ではこうした観点から、日本文学作品を分析して、これまでにない読み取りの方法を行っています。